

平成23年度事業報告書

1. 生涯学習に関する普及・啓発活動

(1) 都道府県レベルの生涯学習イベントへの参加（地方事業助成）

事業の内容：各都道府県においては、人々の生涯学習に対する意欲を高めるとともに、人々の学習活動への参加を促進することを目的としたイベントが多数開催された。

これらのイベントに、都道府県レベルの大正琴関係団体や大正琴愛好者を含むグループが参加しようとする場合に必要な助成を行った。

事業の対象：都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者を含むグループなど10件、総額20万円。

内訳は、地方事業助成団体一覧（別紙1）記載のとおり。

(2) 小・中・高等学校等における大正琴普及事業(中央事業)

① 小・中・高等学校等における大正琴伝承教育の実施

対 象：導入を希望する小・中・高等学校等

事業の内容：日本で生まれた楽器・大正琴に関心と興味を持たせ、近代日本の伝統文化の一つである大正琴を子ども達の世代に伝承した。

また、音楽を通して明るく豊かな心を育むことを期待して行なった。

事業の成果：使われなくなった大正琴を会員から回収し、修理再生して全国の小中高等学校63校に267台を寄贈した。併せて、講師を派遣し、大正琴演奏技法について講習を行った。受講生は1,316名に及んだ。また、当事業をきっかけに、地域の文化活動への参加や、福祉施設への慰問演奏等、世代を越えた交流も行われるようになった。当事業は、日本財団より助成金の交付を受けて実施した。

② 全国子ども大正琴コンクールの実施

年 月 日：平成23年8月21日(日)

場 所：ウィルあいち ウィルホール(愛知県名古屋市)

事業の内容：目標を持って大正琴に接する機会を増やすとともに、次世代へ継承することを目的とし全国の子ども達を対象にコンクールを開催した。会場で演奏し審査をするライブ参加部門と、会場に来られない子ども達に参加の機会を提供するため、送られたビデオ映像にて審査をするビデオ参加部門を設けた。

事業の成果：当コンクールには51グループ407名が参加し、日頃の練習の成果を披露した。子ども達の演奏技術は回を重ねる毎に向上し、審査も拮抗した。また、大正琴唯一のコンクールはマスメディアにも取り上

げられ、多くの人に大正琴の魅力を紹介できた。当事業は、日本財団より助成金の交付を受けて実施した。

出 場 者： ライブ参加部門：23グループ 117名
ビデオ参加部門：28グループ 290名

(3) 機関誌を利用した生涯学習の奨励、学習情報の提供等 機関誌「協会たより」の発行

事業の内容： 会員や大正琴愛好者らを対象に、機関誌を通じて生涯学習の奨励、学習情報を提供することにより、生涯学習の普及・啓発を図った。

事業の成果： 7月に37号を5,500部発行した。

記事の概要

理事長挨拶、平成22年度収支決算報告、理事長表彰受賞者の紹介、公益法人制度改革の概要、トピックス、会員だより、大正琴伝承教育事業の紹介、大正琴資料図録の発行、協会事業の予定

(4) 普及功労者表彰事業（中央事業）

事業の内容： 永年にわたり生涯学習の振興又は大正琴の普及向上に尽力した者を表彰した。

事業の成果： 表彰規程に基づき44名が受賞した。

他の模範として知らしめることで、大正琴を通しての生涯学習活動分野に於いて、更なる関心や評価を高めることができた。

2.生涯学習に関する各種講座、講演会の開催等

(1) 協会主催の講座、講演会の開催（中央事業）

日 時： 平成23年12月7日（水）
午後2時00分～午後3時00分

会 場： メルパルク東京（東京都）

テ ー マ： 初心者の心をほぐす楽しい音楽指導

講 師： 音あそび教室 代表 佐々木菜穂子 先生

参 加 者： 70名

事業の内容： 生涯学習は人の心を豊かにし、目標を持つことにより意欲も高まる。文化活動に参加することにより、地域社会との繋がりも広がるが、参加を躊躇する人も少なくない。そこで、初心者が音楽を身近に感じ、気軽に生涯学習に参加できる指導について講演した。

事業の成果： 参加者は、歌を口ずさみ音楽に合わせてリズム運動を行う「音体操」を実践し、音を楽しむことを体感した。音楽は、心や身体の健康に良い影響を与えることを学んだ。

大正琴を通して生涯学習活動を牽引する立場である受講者にとって、

有意義な講演会となった。

(2) 地域における各種講座・講演会の開催、生涯学習機会の提供等への
援助（地方事業助成）

事業の内容： 都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者グループなどが生涯
学習に関する講座・講演会等の開催を奨励し、このような事業の開
催を幅広く呼び掛け、開催費用の助成などを行った。

事業の成果： 都道府県レベルの大正琴関係団体、大正琴愛好者グループなど10件
に助成を行った。

総額20万円。内訳は地方事業助成団体一覧（別紙2）記載のとおり。

3.大正琴演奏会、指導者研修会の開催等

(1)演奏会の開催(中央事業)

①全国子ども大正琴コンクール

詳細は1ページ1.(2)②のとおり

②第26回国民文化祭「大正琴の祭典」

年 月 日：平成23年10月29日(土)、30日(日)

場 所：文化パルク城陽 プラムホール（京都府城陽市）

事業の内容：京の都から五里、奈良の都から五里に位置する「五里五里のさと」
城陽市で、文化庁・京都府が国民の文化活動への参加と文化の発展
を目的として開催した国民文化祭に於いて「大正琴の祭典」を開催し
た。全国から集まる大正琴愛好家が流派を越えて競演し、こころに
染み渡る音色が会場一杯に響き渡った

事業の成果：流会派独特の演奏技法によって奏でられた音色は、会場を埋めつく
した入場者の心を魅了し、音楽を通して感動や喜びをともに分かち
合った。

また、地元の中・高校生もボランティアとして参加し、世代を越えた
交流も広がり、地域社会づくりに貢献した

出 場 者：29日：府内、近隣県24グループ 546名

30日：全国各地25グループ 585名

入 場 者：29日：1,600名、30日：1,500名

(2)大正琴誕生100年記念事業（中央事業）

事 業 名：大正琴誕生100年記念 合同演奏会

年 月 日：平成24年2月12日（日）

場 所：名古屋国際会議場 センチュリーホール
（愛知県名古屋市中区）

事業の内容：大正元年に誕生した日本固有の楽器大正琴は、わずか一世紀で日本文化の一つへと成長し、多くの人から支持されるようになった。先人への感謝と大正琴音楽を次世代に繋げるべく、大正琴発祥の地、名古屋で演奏会を開催し、未来に向けて発信した。

事業の成果：「ロマンが繋いだ創造の一世紀 ～大正琴の彩音 今未来へ～」のサブテーマのもと、大正琴愛好者2,500名が一同に会し、邦楽、クラシック、演歌等に至る様々なジャンルの楽曲64曲をそれぞれが工夫を凝らした技法で演奏した。

流派を越えた指導者100名による大正琴協会オリジナルソング「微笑をわすれないで」の演奏、ビデオ映像による大正琴の歴史紹介等、大正琴誕生100年に相応しい演奏会となった。

また、全国子ども大正琴コンクールで最優秀賞を受賞したグループを特別ゲストに迎え、世代を越えた交流を図ることが出来た。

出 場 者：一般演奏：25グループ 2,155名
指導者演奏：5グループ 392名
子ども演奏：2グループ 8名

入 場 者：1,045名

(3)地域における大正琴演奏会開催への援助(地方事業助成)

事業の内容：各都道府県においては、人々の生涯学習に対する意欲を高め、学習活動への参加を促進することを目的としたイベントが多数開催された。これらのイベントに大正琴愛好者が参加し、生涯学習活動の一環としての大正琴の普及を図るため、演奏会等を開催した事業に必要な助成を行った。

事業の対象：1ページ1.(1)のとおり

(4)指導者研修会の開催

年 月 日：平成24年3月7日(水)

会 場：ホテルサンシャイン(栃木県宇都宮市)

テ ー マ：心をほぐす楽しい音楽指導って何だろう？

講 師：音あそび教室 代表 佐々木菜穂子 先生

参 加 者：59名

事業の内容：大正琴を通して生涯学習を推進する会員・指導者は生涯学習の意義を理解し、広く学習機会に対応できる素地を養わなければならない。会員・指導者の資質の向上を目的として研修会を開催した。

事業の成果：全国に散在している会員に研修の機会を等しく提供するため今年度は会場を宇都宮市に移して行なった。

音楽は人間が心地よく感じ入る「ゆらぎ」を呼びおこし、快適感を

与える効用があり、身体に良い影響を与えていると言われている。当研修会では、人々が音に意識を持ち、音楽を楽しむことが出来る指導について学んだ。

4.調査研究事業

(1)演奏会の開催(中央事業)

事業名 全国の博物館に於ける大正琴所蔵の調査研究

事業の内容：大正琴誕生100年を期して、現存している大正琴の所蔵状況を記録として残すために、全国の779箇所の博物館・資料館等に大正琴の所蔵調査を実施した。提供された資料を基に図録を作成した。

事業の成果：調査の結果、91箇所の全国の博物館等で、216台の大正琴を所蔵していることが分かった。各館が所蔵している大正琴に関する情報を収集し、それを基に図録を2,000部作成し博物館、図書館及び大正琴関係者等に贈呈した。この図録の刊行は、大正琴の文化的価値を高めた。

5.出版物の刊行

(1) 機関誌「協会たより」の発行

事業の内容：全国の会員・愛好者を対象に、生涯学習、大正琴及び当協会の活動に関する的確な情報を提供することにより、会員の認識、共通の意思並びに連帯感を高め、公益法人としての機能が円滑に運営されることを目的として発行した。

記事の成果、概要等は2ページ1.(3)のとおり。

(2) ホームページの制作

事業の内容：一般市民、全国の会員・愛好者を対象に、大正琴及び当協会の活動に関する的確な情報を提供し、大正琴文化への関心を高め、生涯学習の普及・振興の一助を目的としてホームページを更新した。